

2013年12月期（第63期） 決算説明会資料

2014年2月26日

株式会社 **妙徳**

東京証券取引所JASDAQ市場 証券コード6265

目次

1. 2013年12月期決算説明
2. 2014年12月期業績見通し、配当方針
3. 今後の取組み

添付資料

- ・ 2013年12月期決算短信
- ・ 季刊情報誌 カムトフォーラム
- ・ 会社案内

1. 2013年12月期決算説明

連結損益計算書

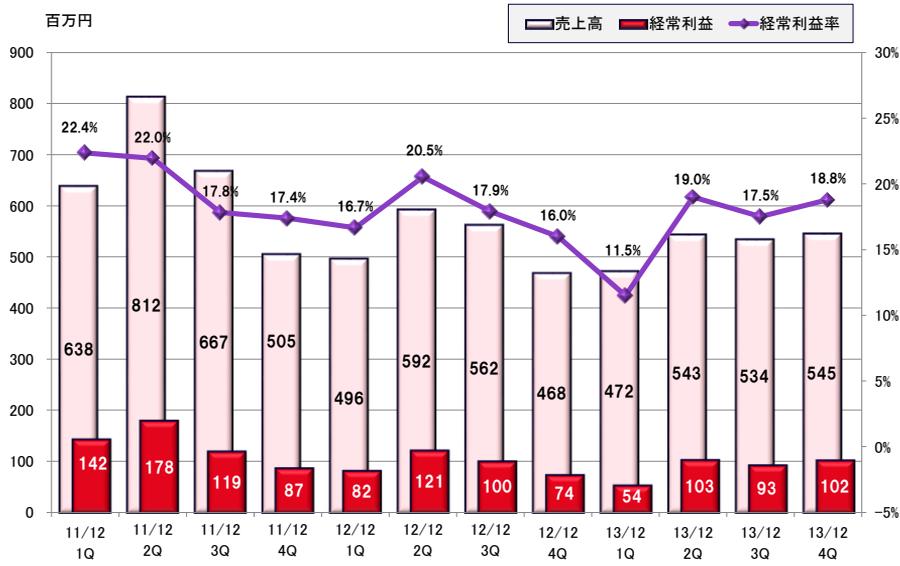
- 国内、台湾販売低迷により売上高前期比1.2%減
- 前期特損計上の影響により最終増益

金額単位
:百万円

	2012年実績	2013年計画	2013年実績	増減率(%)	
				前期比	計画比
売上高	2,120	2,181	2,095	△1.2	△3.9
売上総利益 (売上総利益率)	1,147 54.1%	1,154 52.9%	1,130 54.0%	△1.4	△2.0
販売費及び一般管理費	777	807	788	1.4	△2.4
営業利益 (営業利益率)	369 17.4%	346 15.9%	342 16.3%	△7.3	△1.2
経常利益 (経常利益率)	380 17.9%	363 16.7%	353 16.9%	△7.0	△2.7
税金等調整前 当期純利益	306	368	356	16.3	△16.3
当期純利益 (当期純利益率)	182 8.6%	231 10.6%	225 10.8%	23.3	△19.0
1株当たり当期純利益	23円74銭	30円36銭	29円75銭	6.01円	△0.61円

(*)上記2013年計画は2013年8月1日付開示の計画値となっております。

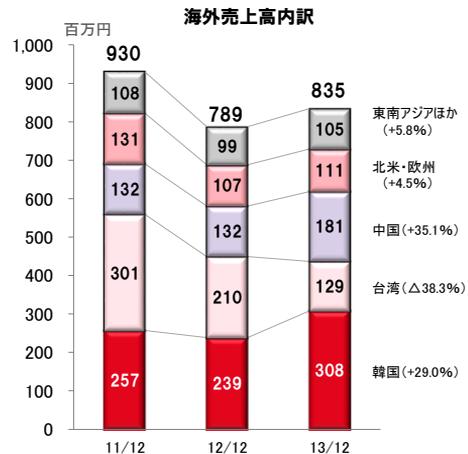
連結四半期毎連結業績推移



連結売上推移



- 国内売上高 1,260百万円 前期比 94.7%
- 海外売上高 835百万円 前期比105.8%
- 連結海外売上高比率 39.9%

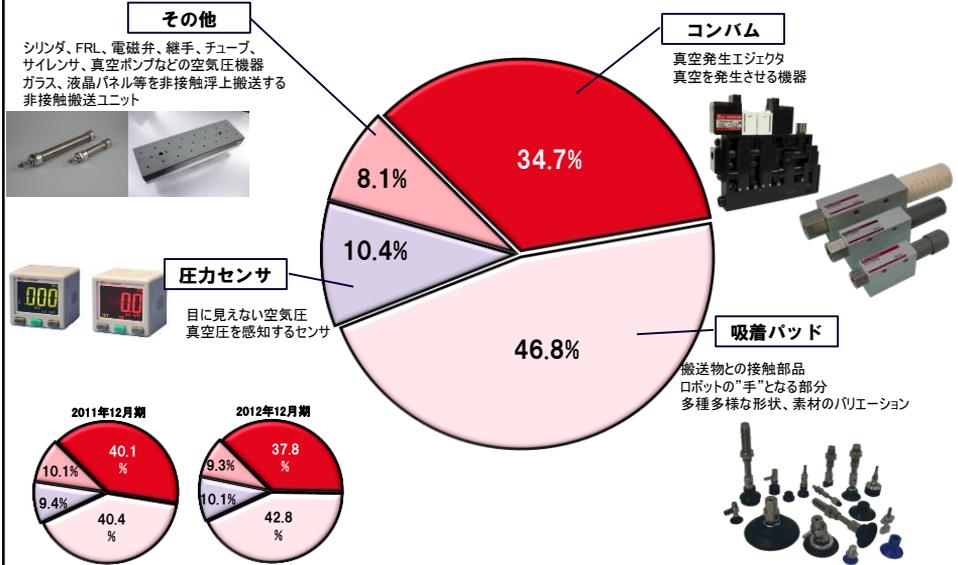


()内は、前年比増減率

連結製品群別売上構成



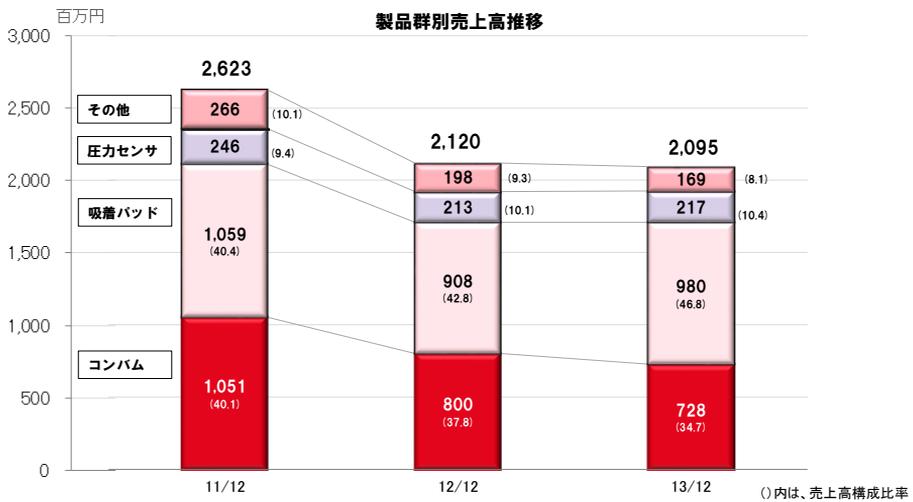
■2013年12月期製品群別売上構成比率



連結製品群別売上推移



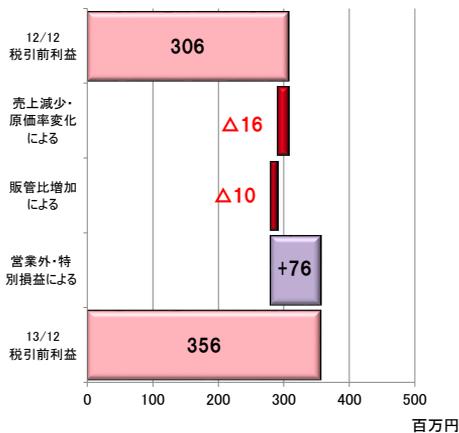
- コンバム 台湾での新規需要低迷
- 吸着パッド メンテナンス需要改善7.9%増収
- その他 韓国での非接触搬送設備案件が計画延期



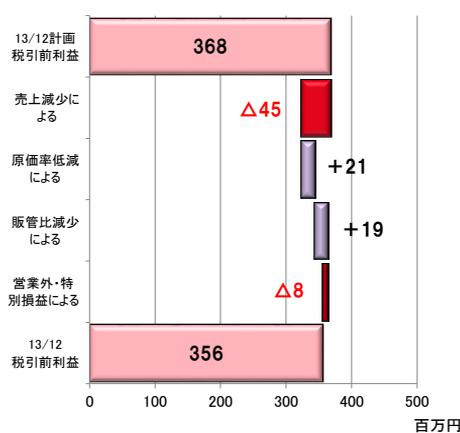
利益増減要因



■対前年比



■対計画比



営業外・特別損益の主な内容

建物建替損失の減少	34百万円
事業所閉鎖損失の減少	33百万円
固定資産売却損の減少	6百万円
投資有価証券売却益	5百万円
助成金返還損	△11百万円

営業外・特別損益の主な内容

助成金返還損	△11百万円
--------	--------

連結設備投資額、減価償却費



- 人材確保への投資（矢口シヨールーム・寮、岩手寮）
- 海外生産移管投資、研究開発投資



主な投資内容

マシニングセンタ	83百万円	免震建屋関連	59百万円	矢口事業所	106百万円
基幹システム	53百万円	海外生産移管関連	11百万円	岩手寮	30百万円
土地建物（韓国）	38百万円	製品金型	10百万円	海外生産移管関連	22百万円
NC旋盤	30百万円	金型開発技術	6百万円	システム投資	13百万円
製品金型	15百万円			射出成形機関連	9百万円
				3Dプリンター	9百万円

連結財務状況



■連結貸借対照表

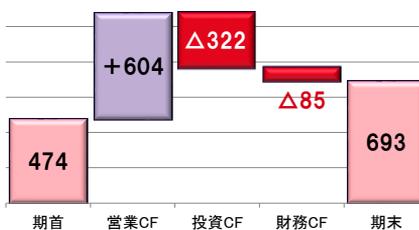
■連結キャッシュフロー表

金額単位:百万円

	2012年 12月期	2013年12月期	
			前年比
流動資産	1,462	1,524	+61
固定資産	2,062	2,307	+245
資産合計	3,524	3,832	+307
流動負債	218	304	+86
固定負債	145	145	+0
負債合計	363	450	+87
純資産合計	3,161	3,381	+220
負債・純資産 合計	3,524	3,832	+307
自己資本比率	89.3%	87.7%	△1.6

	2012年12月期	2013年12月期
営業キャッシュフロー	553	604
投資キャッシュフロー	△124	△322
財務キャッシュフロー	△366	△85
現金及び現金同等物の増減額	73	218
現金及び現金同等物の期首残高	401	474
現金及び現金同等物の期末残高	474	693

13年12月期CF



2. 2014年12月期業績見通し、配当方針

2014年12月期連結業績予想



金額単位: 百万円

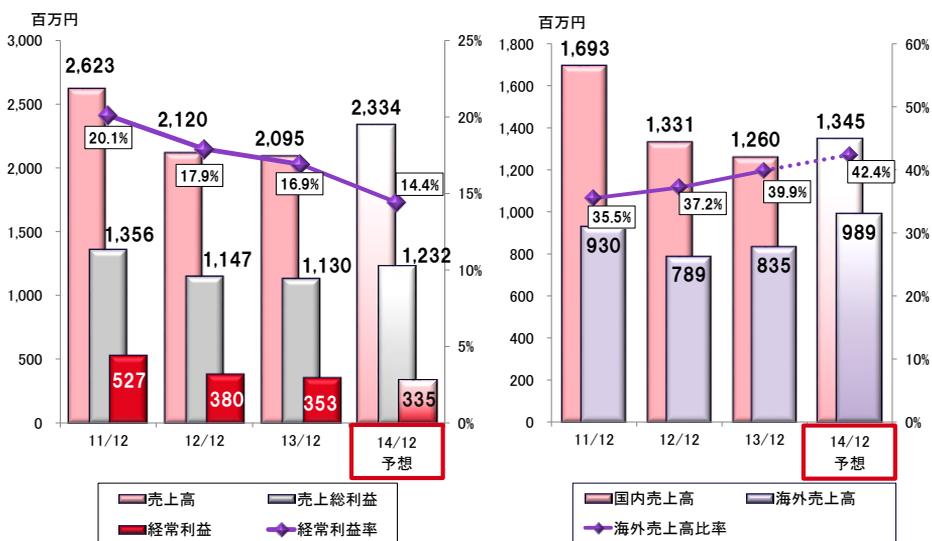
	2012年実績	2013年実績	2014年計画	増減率(%)
				前期比
売上高	2,120	2,095	2,334	+11.4
売上総利益 (売上総利益率)	1,147 54.1%	1,130 54.0%	1,232 52.8%	+9.0
販売費及び一般管理費	777	788	912	+15.7
営業利益 (営業利益率)	369 17.4%	342 16.3%	319 13.7%	△6.6
経常利益 (経常利益率)	380 17.9%	353 16.9%	335 14.4%	△5.1
特別損益	△73	3	0	-
税金等調整前当期純利益	306	356	335	△5.9
当期純利益 (当期純利益率)	182 8.6%	225 10.8%	201 8.6%	△10.4
1株当たり当期純利益	23円74銭	29円75銭	26円99銭	△2.76円

2014年12月期連結業績予想



■連結業績

■国内海外別連結売上

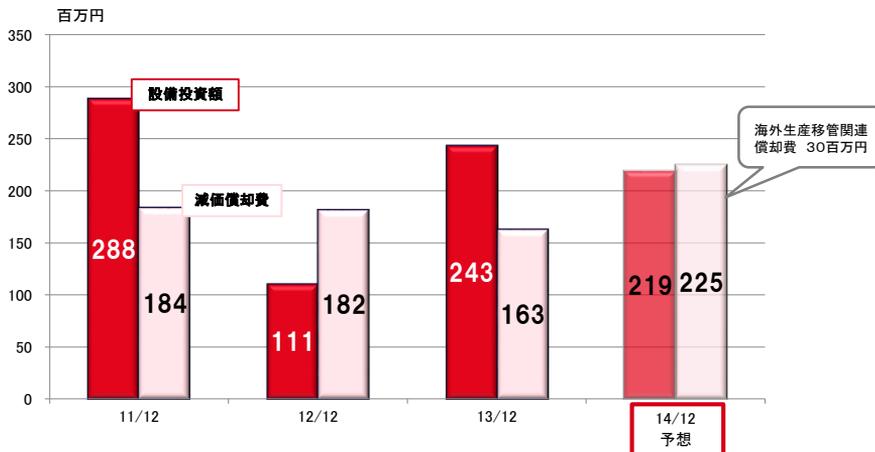


2014年12月期連結業績予想



■連結設備投資、減価償却費

工場改修投資	73百万円	研究開発投資	30百万円
製品金型投資	35百万円	生産設備投資	29百万円
生産自動化投資	30百万円		



2014年12月期連結業績予想



■連結営業利益減益要因



配当について



■配当性向25% 安定的、長期的な利益還元

	2010年12月期 (9ヶ月間)	2011年12月期	2012年12月期	2013年12月期	2014年12月期 (予想)
中間配当	7.0円	5.0円	4.0円	3.5円	3.0円
期末配当	3.0円	5.0円	3.5円	4.5円	3.5円
年間配当	10.0円	10.0円	7.5円	8.0円	6.5円
1株当たり 当期純利益	38円75銭	39円78銭	23円74銭	29円75銭	26円99銭
配当性向	25.8%	25.1%	31.6%	26.9%	24.1%
自己資本当期 純利益率	11.3%	10.6%	5.9%	6.9%	6.0%

自己株式の取得



■自己株式取得の継続的实施

取得実施期間	取得株式数	株式取得価格の総額
2012/ 2/15 ~ 2012/ 8/31	25,000株	4,738千円
2012/11/12 ~ 2013/ 5/11	86,000株	18,401千円
2013/ 5/14 ~ 2013/11/13	83,000株	21,923千円
2013/11/14 ~ 2014/ 5/13 (実施中)	81,000株 (上限)	24,300千円 (上限)
合計	275,000株 (最大)	69,362千円 (最大)

■2013年12月31日時点の自己株式保有状況

- ・発行済株式総数 8,285,000株
- ・うち自己株式数 804,024株

3. 今後の取組み

基本方針と課題

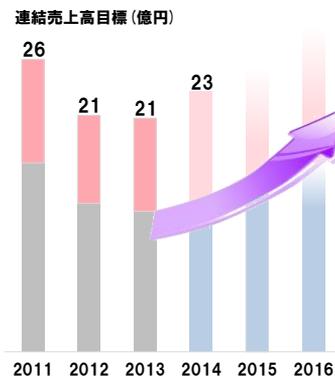
方針 アジア市場を中心とした事業拡大、海外利益を還流し
研究開発投資、更なる事業拡大を図る

国内市場シェアの奪回

海外販売規模の拡大

製品競争力の強化

国内生産拠点の
研究開発拠点への転換



長期成長のための基盤強化と積極投資を推進

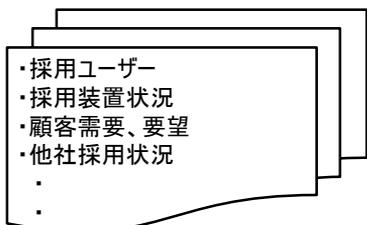
2014年の重点施策



国内市場シェアの奪回

方針 原点回帰「聞き上手な開発営業」(顧客満足度の向上)

顧客情報のデータベース化



国内営業担当増員
11名→16名

製品開発部門と営業部門の組織統合
営業(CS)担当の増員、技術力強化
コールセンターの開設による顧客管理強化

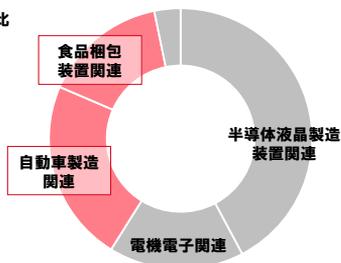
2014年の重点施策



国内市場シェアの奪回

安定成長市場での拡販注力

●売上高構成比



中型サイズコンバム
SC3シリーズ

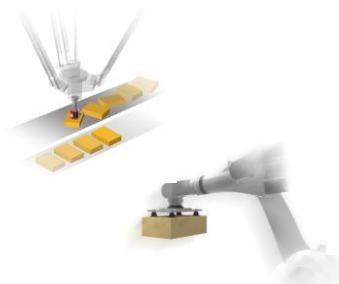
安定成長、販売拡大余地の大きい自動車
製造関連、食品梱包装置関連の開拓強化
ターゲット市場へ向けた製品開発
中型コンバム、ロック機構付パッド、多段じゃばらパッド

2014年の重点施策



国内市場シェアの奪回

➡ ロボット周辺システム提案



製品単体での販売から
ロボット周辺の自動化システムの提案営業
搬送・組立・検査・梱包工程に特化

岩手事業所、矢口ショールーム、大阪、上海、韓国へ
ロボット使用の搬送、組立システムデモ機整備

2014年の重点施策



海外販売規模の拡大

➡ ブランド認知度の向上

海外展示会への積極出展

業界誌へ広告掲載

HP全面リニューアル

各国言語対応

中国新拠点開設

インドネシア市場注力営業

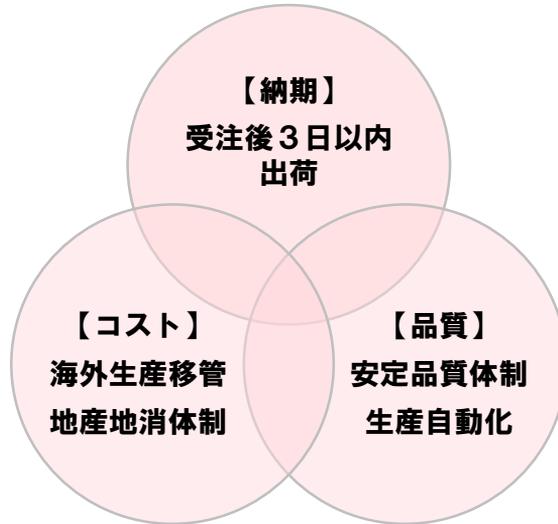
地産地消体制の拡大

納期対応力、価格競争力の強化



2014年の重点施策

製品競争力の強化

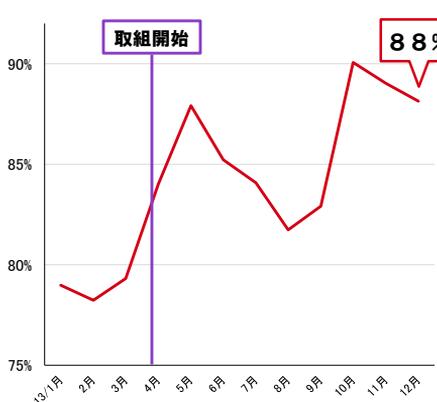


2014年の重点施策

製品競争力の強化

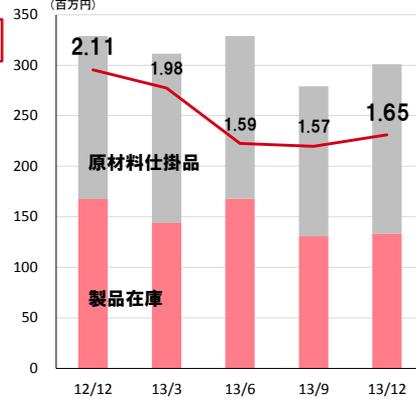
➔ **受注後3日以内出荷体制**
製品在庫から部品在庫保有へ

受注後3日以内出荷件数比率



たな卸し資産回転率推移 (月)

(百万円)



2014年の重点施策



製品競争力の強化

→ 地産地消体制の拡大

吸着パッド生産の海外移管
50型129品目の生産移管

妙徳韓国コンバム組立品目の拡大
移管品目、現地調達比率拡大
グループ内競争、相互供給



→ 安定品質生産体制の構築

誰がどこで作っても安定品質の生産体制の構築

製造工程の自動化

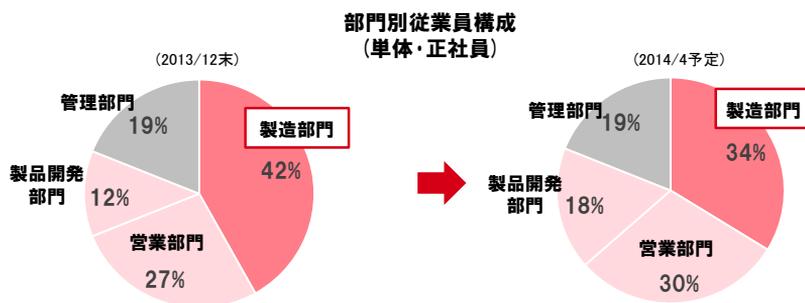
3月	金具付きパッド組立工程の自動化	8百万円
6月	コンバム部品トレイ供給・梱包自動化	5百万円
9月	ゴムプレス型破損防止装置、検査自動化	13百万円
11月	旋盤部品洗浄・簡易測定・梱包自動化	5百万円

2014年の重点施策



国内生産拠点の研究開発拠点への転換

→ 高付加価値工場へのシフト



ライン作業でのパート・契約社員活用
国内工場の競争力強化

2014年の重点施策



国内生産拠点の研究開発拠点への転換

➡ 研究開発スピードの加速

3Dプリンタでの試作、研究開発
ロボットシステム事業への人的資源投入
外注技術の社内取込みと基礎研究の継続
金型技術の社内取込み
海外生産移管ゴム金型製作、金型修繕
射出成形金型の製作
射出成形技術の社内取込み
射出成形機導入
内製化に向けた技術研究



■ 3Dプリンター (2013.9導入)



■ 射出成形機 (2013.12導入)

会社概要



会社名	株式会社 妙徳 (英語表記: Myotoku LTD.)	
創立(設立)	1951年4月16日	
本社所在地	東京都大田区下丸子2-6-18	
代表者	代表取締役社長 中森俊雄	
資本金	7億4,812万5千円	
国内拠点	岩手、東京、名古屋、大阪、福岡	
連結子会社	妙徳空霸陸機械設備(上海)有限公司 (中国上海) 妙徳韓国株式会社 (韓国ソウル) CONVUM (THAILAND) Co.,Ltd. (タイ国バンコク)	
連結従業員数	123名(単体74名)	
発行済株式数	8,285,000株(うち自己株式804,024株)	
上場証券取引所	東京証券取引所 JASDAQ市場 証券コード: 6265	

CONVUMって何？

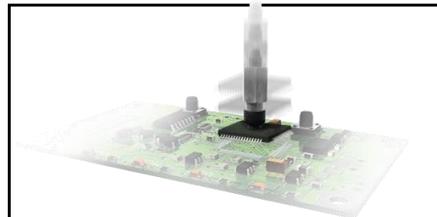


CONVUM(コンバム)は、圧縮空気を利用して真空を発生させる装置の当社ブランド名です。

コンバムは主として、各種製造工場における各工程の自動化装置において、対象物を吸着固定、吸着搬送するための把持装置として使用されています。



自動車フロントガラスの吸着

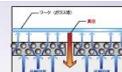


電子部品・半導体部品の実装

製品紹介

正圧・負圧・浮上をキーワードに市場ニーズに応える製品の開発・製造・販売を行っています。



<p>シリンダ</p>	 EBシリーズ	 EEシリーズ	<p>非接触(浮上)搬送ユニット LTU エア浮上ユニットで非接触搬送を実現 ●大型ガラス基板等のたわみやストレスを軽減し生産効率をアップ ●ガラスのサイズ、プロセスに合わせた自由なレイアウトが可能</p> 
<p>電磁弁 サイレンサー</p>	 CVSシリーズ	 CVSシリーズ	 
<p>FRL 継手・チューブ</p>	 MPWSシリーズ	 MPWSシリーズ	<p>NEW 真空ポンプラインアップ</p>
<p>コンバム 真空切換弁</p>	 CVSシリーズ	 CVSシリーズ	 CV-10V / CV-25V
<p>吸着パッド</p>	 PABシリーズ	 PABシリーズ	 CDV-3V / CDV-5V
<p>圧力センサ 流量計</p>	 MPS-335シリーズ	 MPS-345シリーズ	<p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ロータリーベーン構造の回転式ポンプ <p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ロータリーベーン構造の回転式ポンプ 設置が容易 省スペース

お問い合わせ先



- I R統括責任者 代表取締役社長 中森 俊雄
- お問い合わせ先 経営企画部課長 篠原 康隆
- TEL : 03-3759-1491
- FAX : 03-5741-7020
- E-Mail : info@convum.co.jp

ホームページでは、会社情報を随時更新しております。

- URL : <http://www.convum.co.jp>

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測しえないような特別事情の発生または通常予測しえないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の業績見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。